

# ちば通研だより No.500

千葉県手話通訳問題研究会 (発行責任者) 米田 市子 (編集者) 渡辺 正夫  
住所: 〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内  
FAX: 043-247-1201 E-Mail: syuwa@nifty.com URL: <http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

## 「ちば通研だより」が 500 号達成 ～みんなで繋いだ結果です～

ちば通研が誕生したのは1978(昭和53)年5月23日です。そして、支部だよりが創刊されたのは1980(昭和55)年2月1日でした。最初に編集にあたったのは事務局でした。その中心として動いていたのは黒岩史郎氏です。多くの皆さんは信じられないと思いますが、その当時は手書きでした。印刷も鉄筆・ガリ版刷りでした。

その後の広報部長は、田村文美氏、徳田昌晃氏、虻川綾子氏、齋藤小百合氏、渡辺に引き継がれて今日まで継続して発行されています。

2011(平成23)年7月に「支部だより」から「ちば通研だより」に名称を変更し、編集ソフトも2021(令和3)年6月から一太郎からWordに変更しました。

それぞれの担当していた時を振り返り、どのような編集方針で新聞作りに取り組んでいたのか。また、特徴ある出来事や思い出に残る記事などについて、簡単に語っていただきました。

コロナ禍で一時は印刷ができないときもありましたが、これからも毎月発行して、会員の皆さまに喜んでいただける情報をお届けしたいと思っています。

この500号では地域班通信も特集とし、ちば通研だよりの思い出に残る記事や今後に期待することについて書いてもらいました。



10月29日時点でのちば通研の会員数は323人  
(読者会員会員数は15人)  
2024年度の目標数は330人です  
数は力! みんなで会員を増やしましょう～

全通研創立50周年記念 シンボルマーク  
愛称は「ふいーる(feel)」です。可愛がってね。



200号 1999年3月



300号 2007年7月



400号 2015年11月

## 500号を記念して（歴代の編集長に思いを語ってもらいました）

### 黒岩 史郎 氏（創刊号1980年～1997年）

その後さまざまな分野の専門職として活動しており、全通研の活動に明け暮れたのは二十代(四十年も昔)のことで正直なところ「記憶不鮮明」ですが、当時は倉知さん(千葉障害者職業センターのカウンセラー)・大網白里の林先生と分担して記事を作っていたと思います。広報担当は定例会報のほか、集会時の速報の編集・発行も担い、そちらのほうが記憶に残っています。県集会及び夏の全国集会(会場は当時現役学生だった女房の母校千葉大学)では、三日間会場内を走り回り集会の様態をリアルタイムで取材して(徹夜で)編集・発行、翌朝参加者に配付して回った記憶があります。若くて気力・体力とも漲っていた時だからこそできたこと。新採で県に入職しケースワーカーを経験後、県議会事務局に異動した頃の私の「青春の一コマ」です。

### 田村 文美 氏（1998年～2002年）

僕が支部だよりの編集をさせてもらった頃は、ちば通研事務局が西千葉にある障害者の生活と権利を守る千葉県連絡協議会の事務局の間借りをしていた頃です。

もうだいぶ昔の事なので記憶も曖昧になっていますが、その当時とはとにかく記事を集めて紙面を埋める作業が月に1回は必ずあるのが大変ではありました。

当時、以前の支部だよりを見てみると会員さんが紙面に意見を投稿しその意見に次の号では別の会員さんが意見を述べるという事が行われていて、ぜひその様な会員同士の意見の場みたいな紙面にしたいと思っていましたが、なかなかその様にはなれませんでしたね。

だからこそ、意見・報告を投稿してくれた方の文に対しては、そのままを掲載する事を心がけていました。

これは私達の運動の基本である「聞こえない人」への情報保障と同じだと思います。判断するのは情報を得たその人でありそれが自由の証なのだと。

### 徳田 昌晃 氏 (2003年～2012年 2015年～2016年)

私は、田村さんのお手伝いをしていて編集のバトンを引き継ぎました。第250号(2003年5月号)から担当しました。今、気がついたのですが、丁度500号の半分から引き継いだことになったのだなと改めて感激しております。

編集で一番力を入れたのが会員一人ひとりの声を吸い上げることでした。最初は「寄稿をお待ちしております」の文を掲載して原稿を募集しました。また、支部だよりの名称も変更したいと思い募集もしました。さらに広報部への投稿用に専用のメーリングリストのアドレスを258号(2004年1月号)から開設したことを掲載しました。とにかく会員の声を募集したいとの思いでいっぱいでした。

念願の「地域班一行掲示板」は、276号(2005年7月号)から始めることができました。「ちば通研だより」に名称を変更したのは348号(2011年7月号)でした。

また、編集長の2年間間が空いたのは、虻川綾子さんに担当してもらっていたのがお仕事が忙しくなり交代したのです。

### 齋藤 小百合 氏 (2017年～2022年)

歴史ある「ちば通研だより」を徳田さんから受け継ぎ「私に務まるはずないじゃん!」と思いながら、しかし「やるしかない!」と広報部員に支えてもらいながらの6年間でした。この間には新型コロナウイルス感染拡大の影響で休刊もありました。編集作業の一番の苦労と言えれば2021年6月号より編集ソフトを「一太郎」から「Word」に変えたことです。理由はソフト購入に費用がかかること、一般的なパソコンに入っている「Word」なら費用はかかりません。編集作業初心者の私でしたが「一太郎」は日本語文章のためのソフトなので構成が楽でしたが「Word」は難解で、詳しい人や家族に教えてもらいながらの作業でした。「何!」「どうして、ここに張り付かない? ずれる?」「もお～～っ!」とイライラし独り言を叫んでいました。

これから時代とともに内容もソフトも配信方法も変わっていくと思いますが、ちば通研の「全員主役・全員集合・全員笑顔」の精神は変わらず「ちば通研だより」にも繋がっていきます。



7号 1982年10月  
手書きで編集



348号 2011年7月  
名称が変更しました



459号 2021年6月  
一太郎から Word 編集

## 創立 50 周年記念式典・祝賀会 報告 ～50年の絆その先へ 歩み続ける全通研～

10月5日(土)、午後2時より、神戸商工会議所神商ホールにおいて、全通研創立50周年記念式典が、200名近い参加者が集い開催されました。渡辺会長より、「福島で開催された第1回全国手話通訳者会議が前身となり、1974年6月3日に287人の会員で発足した全通研は、『聴覚障害者福祉と手話通訳者の社会的地位の向上』を目指して活動を続けてきた。これまで刻んできた絆をこれからも絶やすことなく次世代に繋いでいくことが重要である」と力強いメッセージを述べられました。

功労者として8の方が表彰され、ちば通研から50周年記念のシンボルマーク「ふいーる」を考案された、高橋みづほさんが受賞されました。祝！！パチパチ～！！

受賞者代表の挨拶をされた埴田和史先生の「けいわんを発症した手話通訳者を診察したことがきっかけで、聞こえない人を支える手話通訳者や手話を学ぶ人々を後ろから支える者がいてもいいのではないかと、内科医から予防医学に進路を変え全通研とかかわりながらやってきた」と語る姿に胸が熱くなりました。祝賀会では、スライド&トークショーやクイズで全通研の歴史を振り返り、仲間の絆が繋いだ50年全国の仲間と盛大にお祝いしました。

(会長 米田 市子)

## 集団視聴会場 報告

2024年10月5日(土)、13時から千葉市中央コミュニティセンターを集団視聴会場として準備をしました。集まったのは役員5人でした。

14時から神戸の神商ホールと繋いで全通研創立50周年記念式典をYouTubeで繋ぎました。これは、50年のお祝いを全国の仲間と一緒に祝いする意味で公開されました。ちば通研としても一緒にお祝いしました。

黙禱に始まり、会長のあいさつ、表彰者の表彰状授与、お祝いの言葉、来賓紹介、そして、記念誌の中身の紹介、記念グッズの紹介があり無事式典は終了しました。

集団視聴していた5人もお互いの情報を交換しながら、一緒にお祝いをしました。

(ICT ちば代表 山田 尚子)

## 臨時代議員会 報告

10月6日(日)、9時半より記念式典と同じ神商ホールにて臨時代議員会が開催されました。

全通研の会員減少やこれまで事業会計の赤字などの状況が続いており、5月の代議員会で組織や事業の在り方について早期の見直しに取り組むことが確認されました。見直し点は3つ。①全通研の部局の再編成、②代議員会の開催方法、③代議員の権限の変更。①についてはすでに新しい部局体制で活動中。②③については内容によって定款変更が必要となるため今回の臨時代議員会で協議し、2025年の代議員会で議決を行うことになっています。

見直しが必要な課題は、(1)4～5月(代議員会前)の事業と執行が現在は代議員会の議決がないまま執行されている、(2)代議員会の討議状況が、討議ではなく代議員と理事との質疑応答でだけで進んでいる、という点です。理事会からの提案は、(A案)事業計画・予算は代議員会から理事会(3月開催)に移管する。(B案)理事会に移管せず、3月にも代議員会を開催する。また、支部の代議員数を現行の1～5人から一律2人にする、というものでした。

この件について、グループ討議形式で活発な意見交換が行われました。

意見として、予算や事業計画を理事会で決定していいのか、10月の支部長会議を代議員会に変更し来年度の事業計画や予算を協議してはどうか、代議員数の削減は会員拡大のモチベーション低下に繋がる、代議員が2人ではN-Actionが参加しにくい、目標を設定し数字で可視化してほしい、代議員会を年3回というのは予算がかかる為オンラインを活用してはどうか、全通研の良さはみんなで話し合っ決めて、参集が理想である、等々出されました。その他全通研の長期ビジョン2030年として、スローガン「つながる」「たかめる」「はたらきかける」が提案されました。定款改正の際は、2025年度の代議員会で議決されることとなります。ぜひ全通研の未来について、みなさんの声をお聞かせください。

(会長 米田 市子)

## ちば通研集会 報告

秋めいてきた10月14日(月・祝)に、千葉市中央コミュニティセンター5階でちば通研集会を行いました。3連休にも関わらずろう者を含め42人の参加がありました。

今年度は、通訳場面に限らず各分科会で日常、ろう者が遭遇すると思われる場面を設定し、聴覚障害者、通訳者、それ以外(サークル員、一般市民、役所や事業所など)それぞれの立場ができる解決策(問題点や関われること)を討論しました。

今年度の特徴は、ろう者と通訳者だけではなく、設定した場面に登場する周りの一般の人々がろう者に対しどのような配慮ができるのか? それを行うには何が必要なのか? を討論の内容に加えました。

一般の人は、「聞こえない障害とは何か?」という根本的なことの理解が十分ではなく、「質問が無いから理解してくれた」「一人で遊んでいるから問題ない」「音声認識アプリを使っているから100%通じるだろう」と考えてしまい、「本当に理解できているのか」「どうして一人で遊んでいるのか」「詳細な指示もアプリで伝えられるのか」まで考えていないとの問題が出ました。

また、手話がメディアで広がり始めているので、会社の人々が少しでも手話を勉強したらどうかとの意見が出た分科会もありました。

今後は、今回の討論をもとに各地域で聴覚障害者や地元サークルと共に、一般の人々への聞こえない方や手話の理解の普及に努めていただきたいと思います。

(研究部長 北原 洋貴)

### 第1分科会(医療) 参加者20人(うちろう者1人)

調剤薬局での事例検討を行いました。初回来局時に聞こえない患者とコミュニケーション方法の確認がお互いに大切。薬剤師も聞こえない人が分かりやすいよう視覚化する工夫が必要。などの意見が出ました。

これらを実現できるよう、医療従事者を含め多くの人に、聞こえない人たちへの理解を広めていく必要性を感じました。「数は力」!

また、医師に聞けなかった薬のことや、薬での困りごとを相談できるなど、薬剤師は調剤以外にもいろいろな活躍をしていると知ることができました。(佐倉班 深水 裕佳)

### 第2分科会(ろう教育+保育子育て) 参加者11人

事例① 聞こえない両親の息子(健聴・3歳)の通う園からの連絡はスマホアプリで配信されるが、持ち物を持参せず担任は困っている。

事例② 難聴の幼児の通う保育参観での自由遊びの時、一人で遊んでいる。保育士は「○○ちゃんは一人遊びが好きです」と話すが・・・。

参加者11人で事例①と②の問題点や園、聞こえない両親、行政、保護者たち各々の立場での対策を活発に議論しました。難聴の子の保護者としての貴重な意見も出され、違う視点からの気づきになりました。この集会は有意義でした。(松戸班 小林 和枝)

### 第3分科会(労働) 参加者11人(うちろう者1人)

私が皆さんの話しやテーマを聞いて、感じたことは働いている人たちはその人の「障がい」について分からないということです。

私は接客業の仕事をしていますが、時々外国人のお客さまが来店してきます。英語がほとんど話せないので翻訳アプリを使ったり、周りのスタッフに助けをもらったりしています。

「障がい」は多種多様で外国人の方と話せないのも言葉の障がいだと思います。

私自身も聞こえない方や外国人の方に配慮ができていない時もあります。これから「障がい」について、少しずつですが勉強していきたいと思っています。(成田班 谷山 陸)

## 地区講座（総武）報告

10月19日（土）午後1時から、市川市本八幡にある全日警ホールにて、総武地区講座を開催いたしました。県サ連会長であり防災士の外口晴久講師より、「図上訓練マイタイムライン」というテーマでお話いただきました。

参加者は、手話検定などイベントの多いこの日にも関わらず、15名の会員（うち2名Zoom参加）、5名のろう者、1名の非会員の計21名でした。比較的新しい、市内でも人気の施設のため、会場予約は大変でしたが広々と使うことができ、本当にいま地震が来ても生き残れそうな空間的余裕があったことは良かったと思います。

3グループがそれぞれ、大きく印刷した市川市の地図を前にグループワークをしました。市川市からの参加者が多いため、道幅や傾斜、過去の災害についても、在住者にしかわからない視点での情報を交換でき、発災時から避難所に行くまでの自助共助について具体的に考えることができました。

外口講師の東日本大震災時の病院の話や、就寝時の発災の備えなども聞くことができ、一層自分事として考えるきっかけになったと思います。

（市川班 中村 由佳利）

## 地区講座（総武）感想

参加申込みが少なかったのが心配でしたが、市川市在住の方が多く集まりました。グループワーク用に準備した地図も市川市のものでした。私たちのグループは、市川の聞こえない方お二人に入ってもらい、地図を見ながら地盤の話から歴史の話と興味深く話し合いができました。

災害時のいろいろな場面で自分がどういう行動をしているかを個人で考えるというワークでは、各自が地図上に付箋にメモして貼りました。聞こえる人も聞こえない人も災害にあったときは同じように大変です。いろいろと意見がありましたが、やはり大事なことは、日常から近隣住民と声かけ、交流が大事という結論になりました。まず自助、共助、公助。

大地震等は、予告なしです。実際に災害があったら、準備していても実行できなかったとなるかも。でも、強い気持ちで、今日の学習が役立ったという結果になれば良いと思いました。有意義な一日でした。このような機会をまた続けて行ければと思います。ありがとうございました。

（市川班 菊池 ひろみ）

### 楽しく未来社会学習班（TMG）企画

講師：川根 紀夫 氏

テーマ：「通訳現場で見つけた問題点の解決方法について」  
（通訳者ではない人たちにも関係してくる問題）

今回、みんなの活動につながる講演をしていただき、更に私たちの活動を広げていける様に企画しました。みんなで楽しく学習しましょう。

日時：2024年12月22日（日） 10:00-15:00

場所：東金市ふれあいセンター（東金市田間3丁目9-1）

参加費：会員、聞こえない人無料

## 「ろう重複者とともに よしえが語る！」 Vol.8

『らいおん千葉』は「手話を学び合い・創作意欲を高め・語り合える場所」です。

地域活動支援センター

(障害福祉サービス制度対象外)

千葉市「地域活動支援センターⅢ型」

創作的な活動や生産活動、社会との交流促進など多様な活動の場を提供しています。

『らいおん千葉』は仲間の力を引きだし、作る喜び、完成する達成感を味わえる場所です。

集まる人々の平均年齢は、いくつでしょうか？ みなさん、いきいきとしています。それぞれが経験豊かな生活力を持ち、自身の作りたい物を考え、職員と相談しながら作業を進めています。

完成品は、千葉聴覚障害者センターの行事、支援団体、後援会、各市聴覚障害者協会の行事にて販売しています。

千葉聴覚障害者センターの送迎車を利用して通所している人もいますが、自身の力で遠方から通所されている人も多いそうです。

各地域によって制度はさまざまなので、『らいおん千葉』に通う目的や必要性を理解してもらえるように、行政へも働きかけていると伺いました。

お身体の状態やご家庭の事情で、遠くからでは通えない人もいらっしゃいますよね。千葉県内に、『らいおん千葉』のような場所が、たくさん増えていくと良いなあと思います。

『らいおん千葉』は「手話を学ぶ場・集う場」でもあります。人生の途中で、聞こえに

くい状況になった人たちが手話を学ぶこともできます。らいおんぐる一歩機関紙を見ていただくと中途失聴者の方の手話学習会開催日が載っています。地域に聞こえにくい人がいましたら、是非誘ってみてください。

先日、通所されている方とお話する機会がありました。「みんなで、おはぎ（あずき・きな粉・



【らいおん千葉】

ごま)、お吸い物、漬物を作って食べたよ」と。一人暮らしなので、集う場所があつて良かった！と嬉しくなりました。お話はとまらず「千葉聴覚障害者センターのビデオライブラリーで、花咲じいさんを2本借りて鑑賞会を行った」と、身振り手振りで話してくれました。「同じ話なのに、手話表現が違い、最初は読み取れなかったけど、紙芝居のように画面に絵と字幕があつて、手話表現の違いがよく分かった。」と楽しそうでした。

手話が学べ、調理を通して栄養や季節を感じ、作りたい物が選べ、完成する喜びを皆で分かち合える素敵な場所になっています。

秋を迎え、バス旅行を計画中と伺いました。場所も皆で「話し合い」決定されます。

話し合う言葉はもちろん手話です。

(飯泉 よし江)

次回に続く⇒

# 特集 全通研創立50周年記念 ちば通研版 「全通研とわたし」

VOL. 11

## 「代議員会でひとこと申しました」

東京都 徳田 昌晃

私は石川県の大学を卒業してその後5年間石川県で暮らしました。そして、2000（平成12）年に千葉県に転居しました。それまで、石川県の北野さんはじめ多くのろう協会や全通研の人たちとともに自治体に手話通訳者を設置する運動に関わってきました。その関わりの中でろう運動を肌で感じてきました。千葉県に転居して向後運営委員長や小林事務局長と出会い、ちば通研の活動に少しずつ関わりました。

最初に手伝ったのは、ちば支部だよりの編集のお手伝いです。田村機関誌紙部長と一緒に頑張っていました。しかし、その当時は石川県と千葉県の会員の人数があまりにも違っていて、活動の内容があまりに違っていたことを鮮明に今でも思い出します。



【インタビュー 2024年7月20日】

特に2024年1月1日に起きた能登半島地震にはビックリさせられました。石川県ではこれまで大きな地震を経験したことがなく、千葉に引っ越してから関東の地震の多さにビックリしていました。石川県では「そんな大きな地震は起きない」と信じ切っていてあまり災害対策をしていませんでした。

しかし、2007（平成19）年3月25日、9時41分に石川県の七尾市、輪島市、穴水町で震度6強の地震を経験しました。また、2022（令和4）年6月と2023（令和5）年5月にも大きな地震を経験しました。そして、災害はいつ起きてもおかしくない状況であることを身に染みて感じたのが2024（令和6）年1月1日の能登半島地震でした。

全通研は1995（平成7）年1月17日の阪神・淡路大地震、2011（平成23）年3月11日の東日本大震災では、手話通訳者を派遣するなどして対応しました。今回の能登半島地震では聴覚障害者災害救援中央本部から支援物資、支援金など支援をしていただきました。全国組織の大切さを知った出来事でした。

また、全通研の代議員会に代議員として参加したことがあります。それは、2004（平成16）年5月のことでした。私は右も左も分からない中、発言しました。それは、全国手話研修センターについてでした。全国手話研修センターの改修に伴い募金活動を2003（平成15）年から始めました。しかし、議案書ではたったの3行しか報告がされていませんでした。全国の仲間がみんなで協力して募金活動をしているのにその報告が殆ど掲載されていなかったのです。私は、活動についてきちんと記載するべきではないかと質問しました。本部からは、「対応する」と回答がありました。代議員の皆さんの中にも私の意見に共感され、議案の決議ではかなりの代議員が棄権か保留したのをはっきりと覚えています。

今までは本部に対して「なんとかしてくれ」という意見が多かったのが、今回は「うちの支部はこうやっている」という主体的な意見や報告が多かったと感じた代議員会であったと記憶しています。

## 医療班コーナー



## 『怖い たんこぶ II』

「えーと、えーと」と繰り返すばかり。不思議な事に質問の内容には答えられないのに、やりとりの内容は、はっきり覚えていました。周りの状況の把握もできていました。

入院当日のCT検査では「オペは明後日」と言われ、家族はオペの内容の説明を受け、サインしたようでした。

しかし、夕方から急激に意識レベルが落ちたため、翌朝緊急オペになりました。子供達も駆けつけましたが、いつもの饒舌な母親でなく、別人の様な顔をしていたと言っていました。

病名は「慢性硬膜下血腫」。2か月前の自転車事故で出来た“たんこぶ”からじわりじわりと血液が漏れ、脳を圧迫していたとのことです。(注1)

頭蓋骨に穴を開け、漏れていた血液を外に排出し、脳の圧迫を取り除く作業でした。手術終了直後から私の意識レベルぐんぐん上昇。人の脳とは本当に繊細にできてるんですね!! 頭に脳があるなんて意識せずに過ごしてきた私でした。

術後は車椅子から訓練と言われていましたが、すぐに歩行はできました。

リハビリは言語聴覚士・理学療法士・作業療法士のお三方にお世話になりました。私の訓練時間は後遺症がなかったせいか20~30分程度でした。

お陰様で言語障害も手足の麻痺もなく、不幸中の幸いでした。

### 《私の教訓》

- ① “たんこぶ”を侮るなかれ。すぐ医者にかかれば良かった。いくつかの予兆と“たんこぶ”とが結び付かなかった。知識不足。(注1)
- ② 聞こえない方とはコミュニケーションの橋渡しをしていますが、お互いの人間関係があつてこそ、お互いを気遣いあえると現場で再学習しました。
- ③ 共生社会を! 身をもって他人から助けていただき感謝。お返ししますよ~
- ④ 倒れても自分の仕事のイロハのイが守れた事。センターの指導力の素晴らしさ。

私の回復力は、周りから見ても驚異的だそうです。一つには私の運の強さ。この運の強さの源は何だと思いませんか? まさに手話です。ない頭をフル稼働させて右脳、左脳で手話と音声語を交換。手は手話を、足も重心を支えています。電車、バスと足を使いこなしての体力勝負です。

運の強さは手話を生涯の友として選んだことです。病床で手話サマに感謝感謝。

ちば通研の皆様、手話があれば仲間がいれば、どんな困難も乗り切れること間違いありません。

がんばれ がんばれ ちば通研!!

(注1) たんこぶは頭蓋骨と皮膚の間にできる血腫。

硬膜下血腫は頭蓋骨と脳の間にある血腫。打撲等の直後に出血する場合と、時間をかけてゆっくりと溜まっていく場合があります。高齢者は頭蓋骨の内側に隙間が空いているので、血液が溜まりやすくなっています。

(千葉市班 田村 貴子)

## ろう教育班コーナー

今年の夏は暑かったですね。連日30度以上の猛暑が続きました。経験したことのない暑さでした。そんな猛暑の中で、部活をする生徒と顧問の職員には頭が下がります。熱中症にならないように水分補給は徹底したそうですが、事故などなく本当に良かったと思います。

さて、8月の初旬に関東聾学校軟式野球大会が千葉でありました。千葉聾は残念ながら今年度は準優勝でした。昨年度は優勝ですから連覇を目指していた生徒にとっては悔しい思いをしたようです。でも準優勝は素晴らしい成績です。猛暑の夏と共に良い思い出になることを祈っています。

野球といえば、沖縄の北城ろう学校の硬式野球部を舞台にした「遙かなる甲子園」という漫画がありました。それを基に映画も制作され、見に行った記憶があります。当時、ろう学校は軟式野球部なら高野連への加入は認められていましたが、硬式野球部は高野連への加入は認められていなかったそうです。ならば軟式野球をすればいいじゃないかと思われるかもしれませんが、沖縄には軟式野球をする高校はなかったのです。（詳しいストーリーはウィキペディアを参照のこと）

アメリカで風疹が流行り、基地のある沖縄でも流行り、たくさんの聴覚障害児が生まれました。その結果、期間限定の北城ろう学校が6年間設立されました。本校にも北城の中学部を卒業した生徒が、千葉の親類を頼って高等部に入学しました。家の事情で退学してしまいましたが、直接教えたことはないのですが、どうしているかな、と思い出すことがあります。風疹が基地を通して沖縄で流行り、たくさんの子どもの人生に大きな影響を与えていることを改めて感じます。（班長 上條 文裕）



No.7 わっこ (矢吹和夏子) 今月のオススメ!



『日本の手話いろいろ②』 2,310円

手話は地域によって表現方法が違うのはご存知かとは思いますが。それがこの本にはどのような由来でできたか語源の説明や例文も掲載されています。又、イラストで分かりやすく解説されています。

例えば私の生まれ故郷に「なんばしよっとかい?」(どうしてそんなミスしちゃったの?)の表現方法にうなずいてしまいます。①こめかみあたりに両手の人差し指か中指を当てる。②手のひらを向かい合わせて両手を軽く振るように前に出す。ですがイラストの横には表情についてのワンポイント等も有ります。更に地元の手話を覚えるのも楽しいです。講座では地域の手話を学ぶのはなかなか難しいと思われま。是非、お手に取ってコミュニケーションにお役立ていただければと思います。研修やご旅行で出かける際にも為になる1冊と思います。

※申込は、ちば通研事務所まで アドレス syuwa@nifty.com

◎ちば通研では書籍等で販売による売上げの一部をちば通研の活動に充てています。

ぜひ、ちば通研から書籍等を購入頂けるようお願い致します。

少しお時間が掛かり待ち遠しい気分ですが、ワクワクしている時間も大切です。



## 私のイチオシ

## …わかしお班…

〈私のイチオシ〉ではありませんが、今、私が幸せと思えることが2つあります。

1つは、通研の仲間がいる事です。こうして通研だよりの原稿を書いているのも仲間がいるからです。もう20年以上も前のことですが、わかしお班を立ち上げてから、何をしてもクレーム・クレームで、すっかり気がめいってしまいました。もう、辞めてしまおうと、会費を払わず何か月もたったころ、偶然、役員の方と会い『会費が払われていないが、どうしたの?』と問いかけられました。訳を話したところ、一緒に頑張ろうと励ましていただき、自分のために手話を続けようと、気持ちを切り替えることができました。

それから、数年後、ある班から又お誘いを受けました。1回目は、自分の力では無理とお断りしましたが、それでも再度お誘いを受けたので、自分は自分と言い聞かせ、仲間入りさせていただきました。先輩の方々の知識の豊富さ・活動力・包容力に魅了されました。

全通研の集会や手話を考えるフォーラムなども泊りがけで参加し、集会の時は多めに話し、後は飲んだり食べたり、おしゃべりを楽しんでいます。一緒に活動をしていて本当にありがたいと有意義な時間を過ごすことができます。仲間がいるということは、本当に幸せなことだと思います。

2つ目は、孫と一緒に青春18きっぷで行く旅です（旅行ではありません、観光は殆んど無し）。

青春18きっぷは、年3回販売し、期間も条件もいろいろありますが、これが、また楽しいのです。

各駅停車の電車で（快速はOK）どこまでいけるかと、時刻表とにらめっこして、今回はどこに行こうか、孫と話し合い決めていきます。孫はただ、電車に乗っていればうれしいので、遠くへ行けるところまで行くのが条件。私は駅から徒歩圏内にホテルがある場所が条件です。

外房線の無人駅から常磐線回りで行きました。〈全通研集会 in 福島〉で訪れた富岡駅の少しずつ復興しているさまを見て、頑張れと応援し、夜の森駅は桜の木々が草で覆われてしまっていて、悲喜こもごもです。やっと仙台駅に着いたのは11時間以上たっていました。そして、次の日は、東北本線でとんぼ返りです。

また、姫路駅までは12時間以上かかります。JR東日本とJR東海の車内放送も全然違います、比べるとおもしろいですよ。JR東海の普通列車はトイレが無いのが多いので要注意！

1日、どこまで行っても2,410円。日帰りが高尾山や大菩薩峠の登山に行ってもよし！

全国を飛び回っている、班員から、行った先々の電車の写真を送ってもらったり、どこどこ駅ではこれを食べてみてといろいろ情報をいただき、孫と一緒に駅そば食べて楽しんでいます。

今までは、冬の普通電車は各駅でドアが開き寒い思いもしましたが、手動ドアの電車も多くなり、冬の中央本線も楽になり、ちょっぴり嬉しい！

さてさて、次はどこに行きましょうかと検討中。

只見線に乗ってみたいのですが、効率よく行くには、どこで宿泊したらよいか、お勧めルートなどを教えていただきたいと思っています。

## 地域班通信

☆500号を記念して、ちば通研だよりの思い出などを語っていただきました。

かずさ班：1980年2月支部だより創刊号発行以来「ちば通研だよりNo.500」の発行に、ちば通研の歴史・継続の力そのものを感じています。活動の情報源であり、特集記事からは専門的な知識や考え方を学び、県内で活動する多くの仲間を知ることができる「ちば通研だより」は、地域班活動への意欲を奮い立たせてくれる大切なツールとなっています。（さちこ）

習志野班：ちば通研だより500号おめでとうございます。毎回きちんと受け取ることができているのも多くの皆様の活動のおかげだと感謝しております。ありがとうございます。トップページの講座の案内から始まり今後の予定まで事細やかな内容の掲載、また地域通信では各班の活動も知る事ができました。今後、非会員にも講座の案内など積極的に行いたいと思います。

鎌ヶ谷班：ちば通研だより、500号おめでとうございます。私が初めて手話に出会った当時を思い出して書きます。それは昭和53年5月5日のこと。鎌ヶ谷市東部公民館において以前病院で知り合った聴障のおじさんと出会うと、彼は何も言わずに私の手を引いて奥の部屋に連れて行く。そこでは20人位の人達がいて、20代と思われる青年を先頭にして「手のひらを太陽に」を手話で歌っていた。その会は手話サークルで、発足して間もなくの交流会だと知る。私も一緒に楽しみ、後日、入会した。その後、ちば通研も発足し、手話サークルの中から有志が私も含めて入会した。それがちば通研だよりの500号に繋がっていると思うと感慨深い。(A0)

千葉市班：「ちば通研だより」が500号!! 私が入会した時は「支部だより」でした。ご存じない方も多くなったでしょうね。当時は千葉市稲毛区の穴川CCで発送作業。封筒に入れるため3つ折りにしてお尻の下へ。この圧でしっかりたたためて楽々封筒へ。そんな作業が懐かしいです。

八千代班：「ちば通研だより」の思い出に残る記事は、『のりおが語る!』です。この連載を読んで、2019年1月に八千代で川根紀夫氏に講演をしていただいた時のこと、その後の賑やかな懇親会を、同年急逝された当時のろう協会長の笑顔とともに懐かしく思い出しました。

八街班：ちば通研だより500号達成バンザイ\(^o^)/ 広報部の編集作業には頭が下がります。行事等に参加できない時は、通研だよりにて報告や参加した方の感想を読んでいます。文面から行事の様子がよく分かり、学びのきっかけや励みに繋がります。これからも毎月のおたよりを楽しみにしております。

印西班：ちば通研だより500号発刊おめでとうございます。毎月届く機関紙のお陰でちば通研の活動が身近に感じ、皆さんの頑張っている姿から力をもらっています。機関紙は、本当にいろいろな人たちの力が集結されて出来上がっているのだなーと思います。これからもい

いろいろな人たちの声が入った機関紙を楽しみにしています。私もサポーターズとして微力ですが末長く協力していきたいと思います。

松戸班：“500号記念発行”おめでとうございます！改めて『地道な活動の賜物』と感慨深く思います。『ちば通研だより』と言えば“地域班通信欄”。他地域の活動内容を知る事ができるので毎号“MUSTで楽しみ”の項目です♪その他“医療班コーナー”も、暮らしのお役立ち情報がわかりやすく掲載されているのでいつも助かっています♪これからも共に協力し、活動と仲間の輪を広げていきましょう！引き続き“ちば通研だより”の購読を楽しみにしています♪

船橋班：情報満載のちば通研だよりを毎号楽しみにしています。いながらにしてさまざまな情報に触れられることがありがたく、原稿作成、編集、発送に関わっておられる皆さまに心より感謝申し上げます。優生保護法の最高裁大法廷を体験された記事は、臨場感をもって読みました。私のイチオシや地域班通信に寄せられる数々のエピソードに、笑ったり、ほっと癒されたりするのも魅力です。

市原班：不真面目会員、斜め読み読者を長年続けてきました。今年5月のオンライン講座、響きました。私は何事も我が事として受け止めることが出来ていなかったと反省させられました。専門班での勉強には後ろ向き。ハードルが高いように感じてしまっ。そんな私ですが「ちば通研だより」の医療班のページはとても勉強になり興味深く読ませていただきます。当初は聞こえない人へのイラストを駆使したページで工夫の数々を教わりました。今は通訳が知っておくべき知識を授けていただいています。最後に全通研の会長として、また、通研の細々とした事柄にも対応して下さっている渡辺正夫さんに心からの敬意を表します。

海匝地域班：通研だより 500号発行おめでとうございます。40年を超えての成果ですね。編集にかかわる多くの皆様、お疲れさまでした。今後もよろしく願います。私は、支部集會を地元飯岡で開催する準備に携わったことから、千通研（当時の通称）に入会してちょうど20年です。ここ数年は介護生活に入り、活動もままならない状況ですが『旧優生保護法』裁判の記事を読み、また傍聴した班員からも話を聞いて、理解を深めることができました。  
(R・H)

佐倉班:500号を迎えた、皆の活動の友、ちば通研だよりに努力賞&感謝状！佐倉市に拠点を構える生活クラブ風の村（社会福祉法人生活クラブ）特別常任顧問の池田徹氏は「走りながら考える」をモットーにしているそうです。悪く言えば「行き当たりばったり」ですが、こんな感じだったからこそ、佐倉班も20数年続いたと思います。今後も柔軟に、ゆる〜くやっていきましょう。

わかしお班：500号おめでとうございます★毎月自宅に届く通研だよりに心救われております。仕事の都合で行事や集會に参加できず、交流の機会が少ないため取り残されそうな気分になる時もありますが、通研だよりが届く事で不安が解消されます。関係者皆様に感謝いたします。これからも末永くつづきますように…★(y・k)

市川班：ちば通研だよりで真っ先に読むのが地域班通信です。毎号各班の担当者のコメントが楽しみです。500号と言えば約42年、よくここまで続いていると感心しきりです。新参者なので過去からの変遷が分からないのですが、現在の「ちば通研だより」は内容が盛りだくさんで文字が多すぎて読みにくいです。これを機会に刷新してはいかがでしょうか？

成田班：手元にある通研だよりの最旧号(?)を探したらちょうど10年前No.383(2014年6月号)、宇治会長のときです。全通研40周年、「通研班」の投稿もありました。地域班紹介の東金班への渡辺組織部長のメッセージに、実質的な活動ができなくても、できる範囲で精一杯やるのが会員の証とし、「会員を継続すること」「研究誌の返信はがきを出すこと」「ちば通研だよりを読んで感想を寄せること」も大事な活動だ、と書かれていました。当時はすっかり活動から離れていた私、会員の継続だけは〇、通研だよりは積読でした…。積んでいた通研だよりは、その頃、家族から「捨てろ」と言われ、半分くらいスキャンして処分しました(。\_-。)

富里班：通研だよりの500号突破おめでとうございます。知っている方の名前を見つけると嬉しくなり、通研だよりはみんなで作り上げているのだなと改めて感じます。また、一生懸命に協力しながら活動に携わり、聞こえない人に向き合っている姿勢が大好きです。中でも地域班通信は読んでいてほっこりしたり、また参考にしたりしています。500号を迎えるにあたり、広報部の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。「あとがき」も楽しみです!!

流山班：ちば通研だよりが500号を迎えたとの事。500号ということは、12か月で割ると41年?こんな計算でいいのかしら。そういえば何年か前に古い通研だよりを持っている人は送ってくださいと言われ、手元にあった30年以上前のものを大量に送りました。届いているのかな。保管されているのかな?…ということ思い出しました。今はといえば地域班の中でほぼ何もできていない私は地域班通信の原稿を毎月せっせと考えているくらいです。それから、9月の手話を考えるフォーラム、流山での開催に足をお運びいただいた皆様、お疲れさまでした。私は家の都合で参加できませんでしたが。有意義な研修、各地域で共有してさらに進んでいけることを期待しています。(emiko)

白井班：ちば通研だより500号おめでとうございます。毎号盛り沢山の情報ありがとうございます。ちば通研だよりのタイムリーな情報に加え、「～が語る」シリーズの様な内容は私の中の抜け落ちた歴史を繋いでくれたり、活動の意味を理解する上でとても参考になっています。充実した紙面作りに携わっている広報部の皆様に感謝の気持ちで一杯です。

六つ星班：手話サークル・養成講座・ちは通研と一緒に入った私。何も分からない私にいろいろ教えてくれたのは通研だよりでした。聞こえない人を取り巻く社会について知り、この講演聞いてみよう等、紹介されるままにいろんなところに参加しました。県外にも飛び出しました。知り合いが増えました。あれから20年、私は今、通研だよりの地域班通信を読み、そしてあとがきを読むのが大好きです。顔を思い浮かべながら読みます。いつもありがとう。毎月楽しみにしています!



## 役員短報

日時：9月28日（土） 9：30-11：20

会場：オンライン

参加者：11人

### <主な議題>

#### ○三役

- ・10月5日（土） 14：00-16：00  
全通研創立50周年記念式典  
集団視聴会場として千葉市中央コミュニティセンター6階を開設。

#### ○広報部

- ・11月号掲載記事の確認  
500号記念特集として編集する。

#### ○組織部

- ・会員拡大 310人（9月24日現在）
- ・ちば通研講座Ⅱ  
11月3日（日）、チラシを配布し申込を開始。
- ・地区講座（総武）（南総）の申込を開始。
- ・データ配信希望者が76人になった。郵便料金値上げへの対応と紙削減のために希望者をなお一層募集する。

#### ○研究部

- ・10月14日（日） 千葉市中央コミュニティセンターで9時30分から開始。9月28日現在、30人申込み。地域班MLで参加者の呼びかけを行う。
- ・3つの分科会で参加者各1人を選び感想文をお願いする。
- ・昼休憩時に「デフリンピック」の映画を上映する。

### <部・班の報告>

#### ○三役から

- ・9月17日（火）、3団体会議  
手話を考えるフォーラムについて  
司会、助言者などちば通研としての任務を果たせた。  
参加者 約300人の参加があった。
- ・10月6日（日） 全通研臨時代議員会

神戸で開催。ちば通研から3人の代議員が参加する。

#### ○組織部

- ・地域班の無料講師派遣事業について六つ星班を追加して実施する。

#### ○医療班

- ・9月8日（日） 臨時学習会開催。

#### ○健康対策班

- ・9月22日（日） 関東通研の健康対策担当者会議に1人参加。

#### ○ろう教育班

- ・9月14日（土） 学習会に5人参加。

#### ○事務局

- ・全通研創立50周年記念誌を本部に注文した。9月中には送付される予定。

#### ○後援会

- ・11月10日（日） 秋穫祭  
ちば通研として出店する。

#### ○関東手話通訳問題研究会

- ・9月22日（日） 支部代表者連絡会議
- ・11月9日（土） 20周年記念行事
- 11月10日（日） 関東通研集会（山梨）
- ・12月1日（日） 埴田和史氏講演会

#### ○ICT ちば

- ・9月13日（金） マイクロソフトにてフォームを仮に作成してテストをする。

## 今後の予定

○11月1日（金） サポーターズ印刷日

○11月3日（日） 役員会

ちば通研講座Ⅱ

○11月9日（土） 関通研集會前夜祭

○11月10日（日） 関通研集會

秋穫祭

○11月24日（日） 関東通研

支部代表者連絡会議

TMG 班学習会

医療班学習会

○11月26日（火） 広報部会議

○11月29日（金） サポーターズ印刷日

## お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス  
アドレスは以下のとおりです。

<http://syuwa-chiba.la.cocacn.jp>

QRコードでホームページに  
アクセスできます。

会員専用ページは  
パスワードが必要です。



○ちば通研へのお問い合わせ

ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail: [syuwa@nifty.com](mailto:syuwa@nifty.com)

○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本名  
もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は11月15日(金)です。

E-Mail: [c-koho@c2ken.sakura.ne.jp](mailto:c-koho@c2ken.sakura.ne.jp)

FAX: 043-247-1201(早朝・深夜は不可)

## 会費の納入のお願い

2024年度の会費納入をお願いしています。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は  
以下のとおりです。なお、申し訳ありませんが  
振込手数料はご負担ください。複数人まとめて  
の納入は、全員の名前をご記入ください。

○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円(聴覚障害者のみ)

○郵便振込先

口座番号: 00120-4-708239

加入者名: 千葉県手話通訳問題研究会

※ゆうちょダイレクトで振込の場合は、月5回  
まで無料です。

## けいわん 110番

<医療的な相談窓口>

滋賀医科大学社会医学講座(衛生学)

TEL: 077-548-2187

FAX: 077-548-2189

<仲間を守る取組みに関する相談窓口>

FAX: 057-451-3281

\*何かありましたら、いつでも、ちば通研健  
康対策班に、ご相談ください。

FAX: 043-247-1201

○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練  
をしています。最近は、災害はいつ起きてもお  
かしくない状況です。そのため、会員の安否確  
認をよりスムーズにするため、専用のフォーム  
を開設しました。

災害の時は、自分から

アクセスして状況を

ちば通研に報告してください。

<https://forms.office.com/r/5bav1TCt53>



## あ と が き

今月号は500号記念号です。創刊から40  
数年、歴代の編集長が創意工夫を重ね、会員  
の皆様がそれに応えて原稿を寄せてくださ  
ったことで今日まで続けることができました。  
皆様の「伝えたい、知らせたい、共有し  
たい」という思いが、この通研だよりを成り  
立たせています。通研だよりの編集に対する  
感想やご意見等、大歓迎です。一緒に繋いで  
いきましょう!(K)

今年の4月に入会して広報部のお手伝いを  
することになり、通研だよりとはまだ半年間  
のお付き合いですが、毎月、多くの方々のご  
協力で成り立っていることに、ただただ感動  
しています。寄せられた文章から伝わって  
くる思いをしっかりと受け止めていきたい!  
そしてまだ入会していない方に「ちば通研で  
一緒に頑張りましょう!」と言いたいです。(YK)